

令和5年4月

神奈川県立近代美術館の基本方針

神奈川県立近代美術館は、昭和26（1951）年に歴史ある鎌倉に日本で最初の公立近代美術館として開館しました。アジア太平洋戦争の敗戦後6年目のことでした。いまだに連合軍による占領下でありながら、広く国内外に眼差しを向けるとともに、新たな平和な時代・社会・地域に求められる美術館の理想像を実現するべく挑戦してきました。その主たる実践の場が旧鎌倉館であり、現在は国指定重要文化財となっています。そして、これまでに築き上げてきた独自性と主体性を維持しながら、神奈川県立近代美術館が芸術文化を通じて未来に向けてさらに平和で豊かな社会に貢献し続けるための基本方針を以下に示します。

1. 近代美術*に関する資料を収集、保管し、調査研究によって人びとの近代美術への理解を促がすとともに、コレクションの価値を高め、未来へと継承します。
2. 近代美術に関する資料を広く集め、またコレクションを活用して神奈川県立近代美術館葉山と神奈川県立近代美術館 鎌倉別館で展覧会を開催するとともに、資料をデジタル化して情報を発信することで、世界中の人びとと文化を広く共有します。
3. 誰もが利用できる地域の生涯学習や社会教育の拠点として、多世代の、多国籍の人びとに近代美術を中心に芸術について学びの機会を提供し、現在と未来に生きる世代をグローバルに育みます。
4. 展覧会を中心とする美術館活動全般を通して国際交流や観光を促進し、LGBTQ などマイノリティを含む多文化への理解を醸成するとともに、関連団体や関係者と連携しながら、まちづくりや福祉など地域の課題に向き合い、創造的で活力ある地域社会づくりをグローバルでインクルーシブな視点も大切にし、SDGsを意識しつつ目指します。
5. 多様な専門的人材を確保、育成するとともに、安定した運営を行うことで持続可能性を高め、社会教育機関としての公益性の増進を図ります。

*設立された昭和26年当時から「近代美術、または現代美術の前衛のなかに立つ」（土方定一「近代美術館創成期」『藝術新潮』第2巻第7号（1951年7月）59頁）美術館として運営され、近代から同時代の美術を含む。